

様式2

令和5年度園評価

大垣市立赤坂幼保園

1. 園の保育・教育目標

- みんななかよし
- ・ じょうぶな子・かながえる子・なかよくする子

2. 前年度園評価や幼児教育指導の方針と重点などを基にした、園経営の重点及び具体的方策

- ・ 「げんきタイム」の内容を、子どもの体の育ちに合せて見直す。
- ・ 「わくわくタイム」は一人一人の子どもの思いを実現し、夢中で遊び込める環境や援助の仕方を工夫する。
- ・ 季節に合った、小動物や野菜の飼育栽培を行う。

3. 評価項目の達成状況及び取組状況

短期目標	自己評価	保護者評価
(1) 身体を動かす楽しさや心地よさを感じる	3.1	3.8
(2) 基本的な生活習慣（整理整頓と食事のマナー）を身に付け、意欲的に生活することができる	3.5	3.7
(3) 「わくわくタイム」を通して、考えたり工夫したりしながら夢中になって遊び	3.1	3.7
(4) 思考力やイメージ力が豊かになり、保育者や友達とイメージを共有して遊ぶようになる	3.4	3.6
(5) 挨拶や生活に必要な言葉を伝えたり、遊びの振り返りで友達と意見を伝えあったりする	3.5	3.7
(6) 飼育活動・栽培活動を通して、生き物や植物への関心をもつ	2.8	3.7
(7) 安全に生活するために必要なことを知り、自ら行うことができる	3.4	3.7

4. 自己評価結果の概要

- ・ 未満児の発達や興味関心に合った遊びや環境を提供することに悩みながら取り組んだ。また、歩き方や座り方から未満児の体の育ちが気になるため、活動内容を工夫していく必要を感じる。
- ・ 園外保育での子どもの姿から歩く経験の少なさを痛感した。幼児期からの体育ちを行っていく中で園外保育の重要性に気付いた。
- ・ 子どもの興味を探り、ひとりひとりが好きな遊びができる環境の難しさを感じた。
- ・ 保育について保育者同士が共通理解したり相談したりする時間の確保が難しい。

5. 保護者による評価及び意見の概要

- ・ フリー参観で生活や給食の様子を見ることができ、子どもの成長を喜び、園への信頼がもてる機会となった。
- ・ たくさんの遊びや製作をし、持ち帰りの製作物やお土産話から、園で楽しく過ごしていることが伝わってくる。
- ・ 収穫した野菜でのクッキング、遠足、中山道まつり、買い物体験など子ども自身が考えたり、取り組んだりすることで、自立心が強くなったと感じる。

6. 関係者による評価及び意見の概要

- ・ 空き箱など多様な材料が準備され、子どもが四苦八苦しながら作る経験がされている。こうしたことは子どもたちのやる気スイッチが入る要因だと思うため大事にしてほしい。
- ・ 危機管理ではいつ来るかわからない災害に向けて、幼児にその重要性を教えるのは容易ではないが、定期的な訓練や指導で少しずつ習得していただけることを期待する。
- ・ 子どもはいろいろなことに興味をもち学んでいくもの。今後も小動物、花、野菜等を育て、収穫しクッキングをする体験ができるといい。

7. 次年度に向けて

- ・ 「げんきタイム」だけでなく、隙間時間を利用した運動遊びや、日常的な園外保育を取り入れ、更に体づくりを強化する。
- ・ 「わくわくタイム」を継続して行い、子どもたちが“明日もやりたい”と思える環境の工夫と再構成を行う。
- ・ 栽培物・飼育物の年間計画を再検討し、野菜や花、小動物に親しむ環境を整える。
- ・ 終礼後各学年で話し合いの時間を確保し、子どもや保育について共通理解をする。
- ・ 防災に関する研修をもち知識を深める。